

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりが主体的に取り組む活動のある授業づくりを実践し、学習習慣の定着を図る。 ②学校行事及び生徒会活動等を充実させ、主体的に取り組む姿勢を育てる。	①一人ひとりの理解度に応じた学び直しを推進し、基礎学力を確実に定着させる。 ②継続した生徒会活動を行うことにより、主体的な活動を育み、継承する体制を構築する。	①クリエイティブスクール最初の年として、生徒一人ひとりの理解度を把握し、組織的な授業改善を通じて、基礎学力の向上を目指す。 ②生徒会本部役員候補となる人材の募集を継続的にを行い、生徒会活動を共にを行い、後継者を育成する。	①生徒の学習状況に応じたクラス編成や授業展開ができたか。 ②生徒会本部役員候補となる人材を3人以上得ることができたか。	①生徒の学習状況に応じたクラス編成や授業展開・職員研修を実施した。 ②生徒会本部の広報員に、5～7人の応募があり、その生徒の中で本部役員になる生徒がでて後継者の育成がスムーズにできた。	①授業のユニバーサルデザインや授業改善研修が必要。 ②継続して、後継者の育成に務めるとともに、生徒会生徒の活動の場を増やしていく必要がある。	① 生徒自身が自身の授業を振り返る工夫はどのようになされているか?の質問あり。プリント学習を取り入れ、毎時間提出させるなどしている。 ② 他校でもリーダーが育たない現状がある。楽しく活動をしている姿を見せることで人が集まる。継続した活動を期待する。	① クリエイティブスクールとしてのわかりやすい授業研究を一層進める必要がある。生徒同志が教え合う場面や発表を55分授業で取り入れることが課題。 ②広報員募集は成果があった。途中でやめる広報員がいるので、その裾野を広げることが課題となる。	① 月1回の教科会議を定例として授業改善方策や観点別評価とその内容を検討する。外部講師を招聘して授業のユニバーサルデザインを研究する。 ② 生徒会の活動を広報を通じてより見えるようにして、活動に参加する生徒を増やしていく。
2 生徒指導・支援	①教育相談体制を整え、生徒一人ひとりの「困り感」や教育的ニーズを把握し、教員間で情報を共有して支援にあたる。 ②部活動の活性化を図り、規範意識や責任感、コミュニケーション能力を育成する。	①家庭環境や個別の事情に配慮しつつ、生徒指導と教育相談を両輪としたきめ細かい支援・指導を行う。 ②部活動を通して、地域と連携できる取組を広げ、結びつきの強化を図る。	①日常生活のルールやマナーなどを生徒に浸透させる。そのために学校全体の共通理解に基づいた指導を定期的・日常的に行う。より早い段階から職員間で生徒情報を共有し、支援にあたる。 ②部活動を単位として、地域貢献活動への参加者を募集し、部活動を通じた地域連携を強化する。	①学校全体の共通理解に基づいた指導が定期的・日常的に行われたか。生徒情報を共有し、生徒一人ひとりのニーズに対応した支援ができたか。 ②地域貢献活動に参加する部活動が3部以上あったか。	①学校全体の共通理解に基づいた指導が定期的・日常的に行われた。生徒情報を共有し生徒個人々々に対応した支援ができた。 ②地域貢献活動にボランティアとして10部活動が参加した。	① いじめ事案が二起きた。説明をしているにもかかわらず、いじめに対する加害生徒・保護者の認識が学校の認識と食い違っている。粘り強く説明していく。 ②部活動顧問の協力もあり、多くの部活動が、地域の人と共に清掃活動に参加した。今後も継続していきたい。	①日常生活のルールやマナーなどを生徒に浸透させるために、生徒会の組織に活動させてはどうかと提言。登下校時の服装がだらしない指摘。 ②生徒に自主的に地域に出て活動してほしいが、部活動単位で地域活動に参加することも意義がある。	① 生徒・保護者にいじめに対する正しい理解を求めていく。身だしなみ指導、遅刻指導の徹底。 ② 地域貢献活動に部活動を単位に参加を募ることは意義があるので、今後もその活動を広げていく。	① あらゆる機会をとらえて、いじめについて説明していく。身だしなみ指導、遅刻指導の回数をカウントし、段階的に実施していく。 ② 地域と連携した活動をより広げ、部活動を単位として積極的に募集する。
3 進路指導・支援	学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	全ての教育活動を通して、生徒一人ひとりが自らの自己実現に向けて積極的に取り組めるよう、キャリア教育を組織的に展開する。	生徒一人ひとりが主体的に進路説明会及び講演会へ積極的に参加する姿勢を養う。そのために、学年及び分掌・SCC・SSW・ハローワーク等が連携を密にし、個別支援体制の充実を図る。	全学年において進路説明会及び講演会への前年度以上の出席率を目指す。特に最終学年の就職希望者については、全員内定を目標とする。	特に講演会では各学年に応じた内容を工夫し、出席率も良好であった。 3学年の就職希望者は全員内定を目指し、3月に入ってから粘り強く活動を継続している。	全学年にわたり、「総合的な学習の時間」を通して、より充実した取り組みとなるように進路支援を行う。 特に3学年はより早期の進路活動に向かうように、個別指導の徹底を図る。	今後もすべての卒業生の進路実現が達成できるように、きめ細やかな進路支援をしていただきたい。未定者についても3月最終日まで対応を継続してもらいたい。	新入生より基礎力診断テストおよびマナトレを導入し、基礎学力の定着に向かう取り組みがなされた。 卒業生の進路実現は進学就職準備が10%以下となり現在も活動を継続している。	1. 2学年ともに基礎力診断テストおよびマナトレを実施し、より基礎学力の定着に向かう取り組みを継続する。 3学年は早期に進路実現への取り組みを実践し進路決定ができるように進路支援を行う。
4 地域等との協働	家庭・地域と学校間の連携を強化し、信頼される学校づくりを推進する。	家庭や地域の教育力を活用して連携を深めるとともに、地域に貢献できる生徒を育成する。	・校外の掲示板やHP等を通じ、生徒の活動や学校行事などの情報を地域や保護者へ情報発信を行う。 ・信頼関係を築き、協力してもらえる学校行事にしていく。	・最新の情報を知らせるために、掲示板やHP等の更新ができたか。 ・保護者の積極的な関わりが見られたか。	校外の掲示板やHP等で学校説明会の日程や生徒の活動や学校行事などの情報発信を行った。いくつかの学校行事では保護者の積極的な協力・参加が得られた。	クリエイティブスクールとしての更なる情報発信が求められている。 HP掲載内容のデータをわかりやすく見直し、内容の一層の充実をはかる。	学校からの情報発信について、生徒が家庭向けのプリントをなかなか自宅に持ち帰らずタイムリーな情報が得られない状況がある。	地域や保護者へ情報は発信により、学校行事等への積極的な協力と参加が得られた。本校への志望者増加に結びつける工夫が必要である。	タイムリーな情報は電子メール配信サービスなども利用して提供して行きたい。 防災訓練などは自治会と協力して行きたい。
5 学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に対する自覚を促す取組みを組織的・継続的にを行い、安全・安心な学校づくりに努める。	事故・不祥事の防止を徹底し、継続的な意識啓発に組織的に取り組む。	・事故・不祥事防止会議の内容の充実を図り、事故不祥事ゼロを目指す。 ・防災や交通安全等の取組み、成績処理等の点検作業、個人情報の管理等を確実に実行。	・事故・不祥事防止会議を年間10回以上開催し、職員の共通理解を図る。 ・人的ミスによる学校事故がなかったか。	事故・不祥事防止会議はほぼ1月に1度実施した。グループごとにテーマを設定し、全体で協議することを通して職員の意識の向上に努めた。	大きな問題は起こっていないが、気の緩みがないよう一層研修内容の充実を図り、事故防止への取り組みを強化していきたい。	来年度においても気を緩めることなく、事故不祥事ゼロに努める必要がある。	各グループがそれぞれ事故防止会議の担当となってお互いに注意喚起する研修スタイルが定着し、職員全体の意識の高まりにつながっている。	今年度の取り組みを継続するとともに引き続き効率のよい、事故の起さない方法の仕組み作りを次年度において検討していきたい。